

表紙裏（新しき世界へ 1968 年 2 月号）

中国の歴史は教える

桜沢如一

中国人は忍耐強い。百年でも河が清くなるのを待つ。一つの土地に住めば、まず鋤をもつて耕す。農業という生活の最も根底的な所から始める。「晴耕雨読」という言葉に見られるように中国人は勤勉である。中国人は天地自然陰陽の道を尊重し、秩序の建設者であれば異民族でも指導者として尊敬し従順に従う度量がある。中国人は学問（道・秩序・真理等真に人生実用の学）のある人を尊重し、生命を尊重する。中国では、「処世の道」とは「養生の道」を意味する。

中国は必ず今後近き将来において又新しきジンギス汗、始皇帝、乾隆帝の如き偉人を出し、今度は空前にして絶後の人類全体の精神的世界国家を造り上げるのに貢献するだろう。

この優秀な中国民族と日本民族を結ばせる人物が出たら世界国家の建設は何でもない。

中国の歴史は教える 一 『陰が最後の勝利者であ陽が最初の勝利者である』ということ。

（昭和十八年「中国四千年史」より）

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください